

1学期を終えて、そして2学期へ

大きな事件や事故もなく、7月20日の終業式で1学期を終えることができました。

1000人を超える生徒諸君にとっては、良い思い出となる出来事や反省すべき事柄など、それぞれのドラマのあった4か月であったことと思う。生徒たちには、1学期の反省を基に、夏季休業期間充実した日々を過ごし、スムーズな2学期のスタートに備えて欲しい。

8月28日から始まる2学期には、生徒にとって1年の最大のイベント、文化祭・体育大会がある。この学園祭は、今年度から「翠星祭（すいせいさい）」という名を冠することとなった。前身の宮崎女子高の時代には、学園祭は「撫子祭」という名で親しまれていたが、平成15年に共学となってからは「撫子祭」という呼称は使われなくなったようである。長い期間、「撫子」に替わる呼称のないまま開催されてきた学園祭に、現在の、そしてこれからの宮崎学園にふさわしい素敵な名称をつけたいという要望があがり、生徒会を中心に準備が進められ、新たな名称の決定に到った。この「翠星」という名称について、生徒会から提出された要望書には、次のように記載されている。

翠星祭の「翠」は「翡翠」から文字を取りました。「は「みどり」とも読みます。

(ちなみに、みどりは本校のスクールカラーであり、本校の同窓会は、「みどり会」といいます。)

そして、「星」は、校歌の「ひとすじつらぬく星となれ」から取りました。

宝石の翡翠は、何もしていない状態では白みがかかった薄い緑色をしています。水で濡らすと白みがだんだんと消えていき、とても美しい緑色になります。しかし、水で濡らすことをやめると美しい緑が濁り、元の白みがかかった薄い緑色に戻ってしまいます。

宮崎学園では、多くの生徒が、日々の努力による汗や涙によって自分自身の魅力を引き出そうと頑張っています。そのような生徒たちが、「翠星祭」を通じて流す努力の汗や涙によって、さらに「ひとすじつらぬく星」なることを願っています。

この生徒たちからあがった熱い思いと「翠星祭」という呼称が、今後長く受け継がれ、全ての生徒が自己の成長のために、汗や(時には)涙を流しながら懸命に努力する校風がますます磨かれていくことを願いたい。

もうすでに準備取りかかっているクラスも多くあるが、それぞれの生徒が自分の置かれた場で責任を果たし、他と協力しながら素晴らしい「翠星祭」を作り上げてくれることを期待している。

平成30年8月10日

校長 佐藤 公洋

